



第七十号

会報 浄土真宗 太陽の会

「令和初めての新年を迎え」

令和二年一月一日
を迎え謹んで新春の
祝詞を申し上げます。

太陽の会は、昨年は
新しい樹木葬の区画
が誕生し、多くの皆
様のご要望にお応え
できるよう先々まで
安心のご供養をご提



案してまいります。本年も多くの年間行事で
法要を執り行いますので、太陽の会にお
参りいただきまして、本年もより良きご
縁が続きますように手を合わせていた
だき、阿弥陀さまの光明の中、共に歩ませ
ていただきたく思います。本年も僧侶、
職員一同どうぞ宜しくお願い致します。

「もちつき大会」

昨年の十二月
十四日(土)に本
山太陽の会で毎
年恒例となった
「もちつき大

会」が行われま
した。当日は天
候にも恵まれて
ぜんざい・きな

こ餅・豚汁等が
用意され多くの会員様・ご近所様に振る
舞うことが出来ました。お客様からも「毎
年もちつきを楽しみにしている」「令和
になって初めてのお餅をいただきました
」と大変喜んでいただきました。



「年始合同追悼法要」

令和二年一月十一日(土)太陽の会にお
いて年始合同追悼法要が執り行われまし
た。毎年一月に年始の合同追悼法要を行
わせていただいで
います。

昨年お亡くなり
の方、ご納骨され
た全ての皆様を偲
ぶとともに新年を
迎えることができ
た慶びをご本尊に

報告させていただきました。阿弥陀さま
の導きの中、本年も精進していきますと
誓いをする大切な法要となります。初詣
は、神社には毎年、参拝しているとい
うお話も聞きますが、是非、ご自身のお寺
にも新年のご挨拶として初詣にお参り下
さい。



「報恩講 合同追悼法要」

令和元年十一月十六日(土)太陽の会において報恩講 合同追悼法要が執り行われました。この度のご法話では、「法名と戒名」についてお話しいただきました。「戒名は定められた戒律(修行するものや僧団が守らないといけない規律)を守り、精進することを誓って与えられる名前、法名とは性質が違います。浄土真宗では法名という仏教をより処に生きようとする人に与えられる名前で仏教徒の証となるのです。」と普段私

たちが疑問に抱く法名と戒名の違い、また正式にお寺に依頼するときの事などわかりやすく教えていただきました。



「秋彼岸 合同追悼法要」

令和元年九月二十三日(月・祝)太陽の会において秋彼岸会が執り行われました。この度のご法話では、「いのちの教」を題材にお話しいただきました。



きました。「私たちには、父母の二人がいて、その父母にもそれぞれ父母がいてとさかのぼると十代前には千二十四名、二十代さかのぼると百四万八千五百七十六名もの先祖が連なりそのうちの一人でもかけると私たちは誕生していません。この事実私には日ごろあまり向き合わずに生きています。」ご参拝の皆様とご先祖が脈々とつないできたいのちのリレーに感謝し、手を合わせる秋彼岸となりました。



「じろの詩集」

◇詩集を心で味わいましょう

「つまづいたおかげで」

つまづいたり ころんだりしたおかげで物事を深く考えるようになりました

あやまちや失敗をくり返したおかげで人間としての自分の弱さとだらしなさをいやというほど知りました

だまされたり裏切られたりしたおかげで馬鹿正直で親切な人間の暖かさもしりました。そして

身近な人の死に逢うたびに人のいのちのはかなさといま ここに

生きていることの尊さを骨身にしみて味わいました

作・相田みつを

『にんげんだもの』から

「クイズ浄土真宗」

- Q、灯明を点じる意味は？
- ① 死者が迷わないように
 - ② 仏さまのお心を味わう
 - ③ 読経する際の明かり取り

死後の世界を「暗闇の世界」と思う人は多いことでしょう。まだ行ったこともない世界です。すから、不安で恐ろしいと思うのも無理はありません。死後の世界を冥土と表現するところがありますが、この「冥」という字は暗いや見えないという意味です。そこから「死者が暗がりや道に迷わないように、灯明を点してあげる」と思われる方がいるかもしれません。



しかし、浄土真宗に出会えば、死後には「浄土」が待っています。この浄土は、暗闇の正反対で「光あふれる世界」です。阿弥陀仏の大いなる慈悲のお心が光明となつて、浄土の隅々にまで生きわたり、私たちの娑婆世界までも、明るく温かく照らし尽くしてくださるのです。

その仏さまの大悲の光明を味わうのが、灯明を点じるゆえんです。

③の読経するときの明かり取りの灯明は、暗ければ用意すれば良いでしょう。しかし、仏の灯明としては仏さまやお浄土の情景としてうるわしくお飾りするのが本来のあり方で、その心は、
 仏さまのお徳をいただくことにあると
 言えるでしょう。

Q、灯明を点じる意味は？



クイズの答え・②

「歎異抄を読む」 たんにしよう

『歎異抄』は、親鸞聖人が亡くなった後、門弟の間に真実の信心に背く異議が生じたことから、聖人から口伝を受けた著者が、同心の行者の不審を除くために著した親鸞聖人の言語録です。

摂取不捨の利益に



あづけしめたまふなり

釋蓮如(『歎異抄』第一条)

真実に背き真実から逃げても

真実に包まれている

阿弥陀さまに背を向け、真実から逃げている私を、追いかけて抱き取り、導いて下さる。それが阿弥陀さまの「摂取不捨(摂め取つて捨てない)」の心である。

「月のことば」九月〜十二月

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらっしゃると思いますが、身近なやさしいお言葉として皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

【九月のことば】

わがこころよければ
往生すべしと思ふべからず

「親鸞聖人御消息」より

自らの心が善いから、往生することができるはずだと思つてはなりません。自力のはからいでは、真実の浄土に生まれることはできないのです。

【十月のことば】

信心というのはずなわち
本願力回向の信心なり

「顕浄土真実教行証文類」より

本願力回向といわれる信心も、阿弥陀さまの必ず救うという本願の力・はたら

きがあつてからこそ、そのはたらきにすべてまかせるという信心がおこるのです。

【十一月のことば】

一所懸命は知恵が出る
中途半端は愚痴が出る
いい加減だと言訳が出る

「武將 武田信玄」より

たとえ良い結果に恵まれなくても、一所懸命やっていたれば必ず何か手に入れられるものがあります。中途半端にやるものには何も手にできません。

【十二月のことば】

信心あらん人むなく
生死にとどまることなし

「一念多念文意」より

人生を過ごしていく上で思いどおりにならないことに出会い、苦しい目に合わなければなりません。そうしたとき、受け止めていく心が出来上がったならば、これほど充実したものはありません。

浄土真宗 太陽の会

令和二年 行事予定

○春季彼岸会 合同追悼法要

開催日3月21日(土) 2部制

午前11時/午後2時より

○花まつり週間

開催日4月6日(月)〜12日(日)

○合同追悼法要(三原・福山西太陽霊園)

開催日5月9日(土) 11時より

○盂蘭盆会

開催日8月13日(木) 2部制

午前11時/午後2時より

○秋季彼岸会 合同追悼法要

開催日9月19日(土) 2部制

午前11時/午後2時より

○報恩講 合同追悼法要

開催日11月14日(土) 11時より

※法事やお齋（会食）の会場貸の予約は早めのご予約でお願い致します。なお法要室は宗旨・宗派を問わずご利用いただけます。(法務担当者)

